

広報
[なか]

NAKA

2021 秋号 VOL.177

公益社団法人 名古屋中法人会



DIARY 2021-2022.....	1
シリーズ・この人	
名古屋大学教授 森川 高行	2
シリーズ・こだわり見学記	
EYE中区 久屋大通庭園フラリエ	6
署長インタビュー	
名古屋中税務署長 太田 善美	8
《健やかサークル》	
ぶどう	26
《ものづくり愛知の至宝》	
松坂屋コレクション 京名所模様小袖	27
シリーズ・お時間拝借	
人財企画顧問 吉田 学	28
《NAKAダカラオモシロイ》	
池田公園 なごやかベンチ寄贈・清掃	12
税に関する絵はがきコンクール	14
中区小学校新一年生「れんらくぶくろ」デザイン決定	16
《社長の“やる気”サポート》	
日経景気討論会	17
令和3年度 税務研修会（税制改正の実務ポイント）	18
やさしい法人税セミナー	18
決算期別研修会（7月～9月期）	19
初心者のための源泉所得税研修会	19
大規模法人研修会	20
消費税（インボイス制度）研修会	22
第10回理事懇談会	24
組織委員会・総務委員会・事業委員会	24
名古屋中税務署幹部へのあいさつ	25
広報委員会	25
《会員サロン》	
料亭つたも 亭主 深田 正雄	32
新入会員紹介	36
《行事メモ》	37



表紙の写真

森川 高行
名古屋大学
未来社会創造機構：モビリティ社会研究所 教授

京都大学工学部卒業、同大学院修士課程修了。マサチューセッツ工科大学（MIT）大学院博士課程修了。京都大学助手、名古屋大学助教授、MIT 客員准教授を経て、2000年から名古屋大学大学院教授。

現在、名古屋市都市計画審議会会長、名古屋市交通問題調査会会長、名古屋スマートシティ推進協議会座長、愛知県MaaS推進会議座長などを努める。

専門は、モビリティサービス、自動運転、都市交通、都市計画、消費者行動論。主な著書に、「交通行動の分析とモデリング」（技報堂出版）、「道路はだれの者か」（ダイヤモンド社）、「モビリティイノベーションシリーズ 第1巻 モビリティサービス」（コロナ社）

DIARY 2021-2022

nov. 11

- 1月 愛知県法人会連合会・税制講演会
講師：愛知県総務局財務部長
片山 良太氏
名鉄グランドホテル11階 14:30
経営研究会 特別対談
WEB生配信
(なごチューブ開局一周年記念)
「心つながるまちづくり」
対談：岡田 邦彦氏
(元名古屋中法人会会長・元名古屋商工会議所会頭)
大澤 和宏氏
(名古屋テレビ塔株式会社取締役社長)
中部電力MIRAI TOWER(旧名古屋テレビ塔)から生中継をなごチューブで配信
- 2火 青年部会・名古屋市共催
「環境支援型」就労支援
講演・パネルディスカッション
講師：名古屋市・企業リンクサポート所長
渡邊 ゆりか氏
ウイंक愛知 1102会議室
(同時にWEB生配信)
- 6土 青年部会
第24回「中法人会TAX杯」
ミニサッカー大会
名古屋市港サッカー場
- 10水 新設法人説明会(名古屋中税務署共催)
講師：名古屋中税務署担当官
名古屋中税務署会議室 13:30
- 11木~17水 名古屋中税務連絡協議会
「暮らしの中の税金展」
税の作品 展示のみ(表彰式は中止)
NHK名古屋放送センタービル一階
税を考える週間
- 17水 決算期別研修会(10~12月期)
講師：名古屋中税務署担当官
昭和ビル9階ホール 13:30
- 24水 大須支部役員会
昭和ビル9階会議室
- 25木 女性部会 署長講演会
講師：名古屋中税務署長
太田 善美氏
ホテルオークラ 11:00

dec. 12

- 2日 平和支部事業
平和学区総合パトロール
- 19日 錦三丁目支部事業
「養護施設の児童をプラネタリウムに招待」
名古屋科学館



スイレン



コスモス(※)



モミジ(※)

2022
jan. 1

- 21金 青年部会 名古屋中租税教育推進
協議会主催 租税教室開催
名古屋市立橘小学校
- 24月 新春賀詞交歓会&記念講演会
講師：名古屋中税務署長
太田 善美氏
会場：コンダーハウス 18:30

feb. 2

- 2水 決算期別研修会(1・2月期)
昭和ビル9Fホール
- 22火 大規模法人経営者講演会
講師：名古屋国税局長
臼杵 芳樹氏
マリオットアソシアホテル 15:30
- 24木 正副会長会
昭和ビル9Fホール 15:00

mar. 3

- 1火 東海法連 岐阜大会
法人会運営研究発表
岐阜グランドホテル
- 14月 理事会
昭和ビル9Fホール 15:00
- 24木 常任理事会
昭和ビル9Fホール 15:00

色文字は一般参加の事業
新型コロナウイルス感染拡大等の状況により、
変更または中止となる場合があります。
名古屋中法人会ホームページをお確かめのうえ
お出掛けください。
<http://www.meinaka-houjinkai.or.jp>



久屋大通庭園フラリエ



ハボタン(※)

(※) フラリエ写真提供 久屋大通庭園事務所

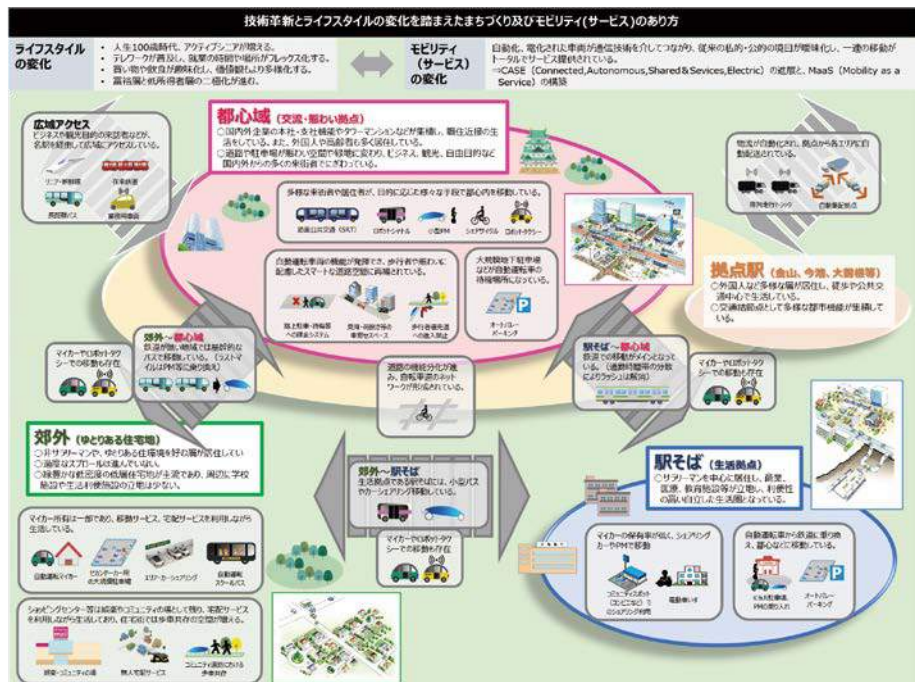


名古屋大学 未来社会創造機構…モビリティ社会研究所 教授

森川 高行氏

モビリティイノベーションと名古屋のまちづくり

～2030 中区ワクワク未来地図～



2050名古屋市の自動運転都市の姿

モビリティ革命の変遷

1886年のベンツ、ダ임ラーによるガソリン車誕生以来の初めての本格的イノベーションが、いま起きつつあります。

これまで交通システムには4回革命があったと考えています。

モビリティ1.0：今から200年ほど前に産業革命が起こり、それまで歩くか畜力、風力に頼っていた交通手段に、原動機が備え付けられ、蒸気鉄道・蒸気船・蒸気自動車などが発明されます。

モビリティ2.0：アメリカのフォード社によるT型フォードは1年間に200万台ほど販売され、爆発的に庶民に広がりました。自動車の大衆化です。中産階級の人々は車を購入、郊外の環境の良いところに住宅を建て車で通うようになり、これが民衆の「あこがれ」になり、まちがガラッと変わりました。

モビリティ3.0：1990年頃から、車にICT（情報通信技術）が応用され、カーナビ、ETCなどが普及しました。ITS（Intelligent Transport Systems 高度道路交通システム）です。

モビリティ4.0：2020年頃から車とインフラの智能化が進み始めました。

CASE 革命と自動運転

モビリティ4.0ではICTによって車が智能化していきます。例えば、車同士が繋がるコネクティッドカーです。車は電子制御で動くようになり、高級車には100個くらいのコンピュータが搭載されています。さらに、位置を知るGPSや各種センサーも加わっています。これらのデジタルデータをパケット通信で吸い上げ、そのビッグデータを使って知能化・自動化する動きが出てきました。その一つの流れが自動運転です。自動運転になれば運転できない高齢者でも自動車のサービスを楽しむことができるのです。このモビリティ4.0を典型的に表す言葉がCASE（Connected つながる化・Autonomous 自動化・Share & Servicized シェア化／サービス化・Electric

電動化）です。自動運転化された電気自動車を、自分で車を保有するのはなく、呼べば来てくれる移動サービスとして使う、究極のモビリティイノベーションです。

自動運転は1～5のレベルがあって、レベル3はシステムが運転を行うが必要なときにドライバーが対応します。レベル4はシステムが運転しますが、走行環境（地域・経路）は限定的です。レベル5はどこでも自動運転で走れる、夢の完全自動運転です。

公共交通的な移動サービスはレベル4で十分ですが、CASEがいつ社会で実装できるのか。

名古屋大学のCOIプロジェクト「人が繋がる“移動”イノベーション拠点～高齢者が元気になるモビリティ社会～」の「ゆっくり自動運転」のコンセプトについてお話しします。低速度（時速20キロ以下）で特定地域を走ることによって早期にサービスを開始します。目指すのはレベル4で、バス停から家までのラストマイルサービスや近距離の巡回バスなどに応用できます。

車は、一人乗り電気自動車から8人乗り電気バスなど4種の改造車で実証実験しています。COIプロジェクトは今年が最終年度ですので、これからも続けていけるように「株式会社エクセイド」を設立し、自動運転の社会実装を続けていきます。



ゆっくり自動運転®車両プラットフォーム



郊外での鉄道駅



郊外の住宅地

駐車場のスペースは家庭菜園になります。

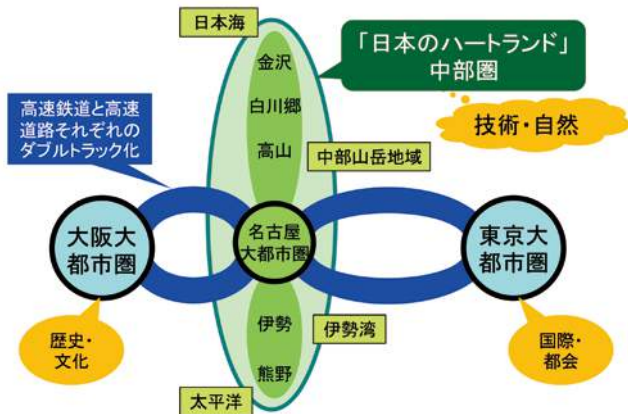


都心の姿

リニア中央新幹線のインパクトと名古屋のあり方

リニア中央新幹線が大阪まで開通すると3大都市圏（東京・名古屋・大阪）がひとつの巨大都市圏（スーパーメガリージョン SMR）になりますので、一塊でプロモーションして世界と戦えます。

3大都市は、鉄道・高速道路が東海道筋と中央道筋で8の字でダブルで結ばれ、それが交差するのが中部圏です。



SMRにおける大都市圏と中部圏

シナジー効果を発揮するために名古屋の特徴を考えますと、中部圏は「中心性」と「日本らしさ」で「日本のハートランド（中心地）」、その中心都市が名古屋だと思います。心の故郷的なイメージです。

中部圏は国際的地位を築いてきた「信頼されるモノづくり」の中心であり、木曾ヒノキや陶土の活用から始まる歴史、匠の技と精神を活かしたモノづくりがあり、日本の経済エンジンを担っています。

日本古来の土着的な日本文化、伊勢神宮、熱田神宮、熊野三山、中部山岳地域の山村・自然、田楽・万歳など自然と溶け合う文化もあります。

3大都市間の移動時間の短縮だけでなく名古屋駅などリニア駅から地域内へのアクセスを良くする必要があります。

名駅が玄関、栄・大須は座敷、中部圏で考えると名古屋が玄関で伊勢・滋賀・熊野が座敷です。さらに引いて見ると、リニアが開通したら、玄関の東京に着いたら、次は京阪神の京都・奈良・大阪が座敷になります。中部圏も座敷として、日本のハートランドとして発展させていくべきなのです。

高速道路が名駅に直結する計画もあります。座敷としての栄・大須の魅力化、栄の久屋大通り公園の魅力アッププロジェクト、三河・美濃へのアクセシビリティを良くすることも重要になります。

ストロー効果はどうか？トヨタは先ごろ最先端の研究所をつくったけれど、東京以外に人材が集まらないので東京に立地させました。リニアができれば東京に住みながら名古屋の会社に通うことは可能ですし、その逆もできます。また東海道新幹線と中央新幹線がクロスする名古屋の利便性は向上し、岐阜・四日市・三河・豊橋などから名古屋へのストロー効果は発生してしまうでしょう。

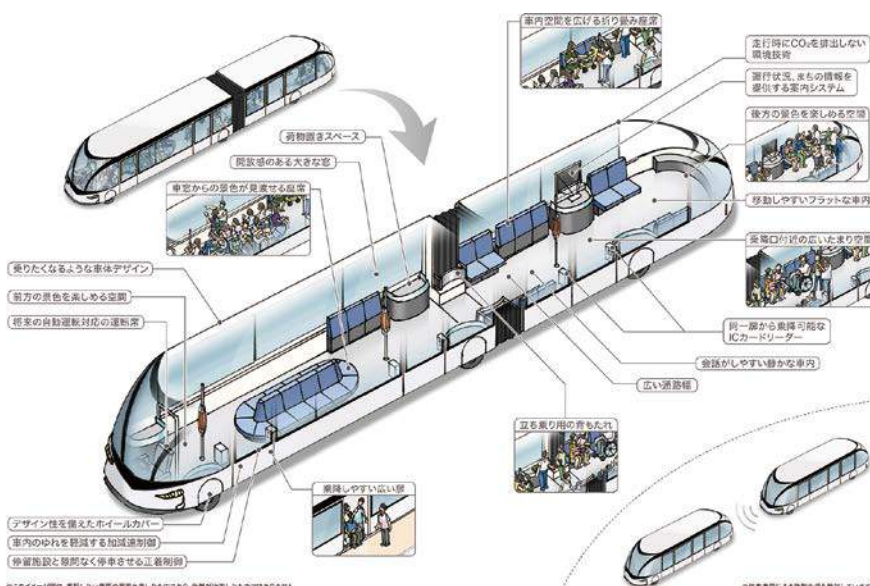
コロナ禍によって居住地と就業地など生活への考え方も変わりました。移動に関しては、満員電車やシェアリングは敬遠され、自家用車や自転車が見直されています。

形式的な会議はオンラインで十分、重要な会議も、どの地からでもオンラインで参加できるようになりました。買い物もインターネットショッピングが増えました。

居住地の「選択化」が進みます。クリエイティブクラスの人に選ばれる街をつくっていくことが地方創生になります。

2050名古屋市の自動運転都市の姿

名駅・名城・栄・大須を結ぶ幹線道路には新しい路面公共交通機関SRT（Smart Roadway Transit）やシェア型の自動運転車が走り、より細い道にはシャトル型（6～8人乗りの小型バス）、ポット型（2人乗り）の小さい自動運転車がゆっ



新たに開発する車両のイメージ



東京第一ホテル錦11F チャーロ

くり走り、歩道を広くして賑わいの空間にします。

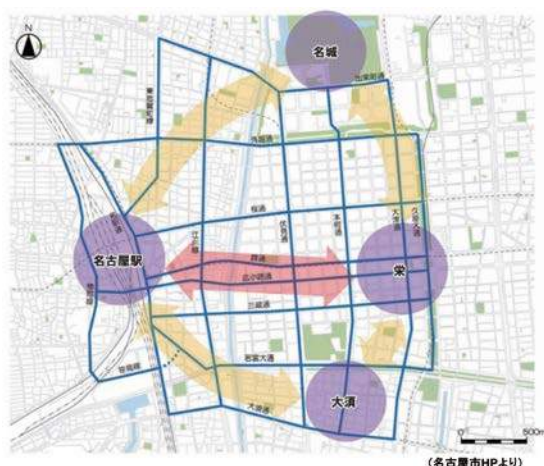
マイカーの駐車場は要りませんので、これまでの駐車場の空間はもっと有効に使え、さらに例えば地下の久屋駐車場はシャトル型、ポット型の待機場、充電やメンテナンスする場所のイメージで考えています。

郊外の鉄道駅にはポット型の自動運転車が改札の前まで迎えに来て自宅まで送ってくれます。郊外の住宅地もマイカーを持つ必要はなくなりますので、家庭の駐車場は庭や家庭菜園にできます。住宅地では、シェアするポット型の自動運転車が待機していてスマホで呼び出せばやって来ます。住宅地内の車は完全にコントロールされていて道路上で子どもたちが遊べるようになります。

SRTは現在名古屋市でも真剣に検討しています。SRTは私が名付けたのですが、路面を走る賢い自動運転の公共交通です。従来のLRTやBRTの優れた点を併せ持った最先端で魅力的なタイヤベースシステムを提案しました。

床は低く、デザイン性も優れ、電気（燃料電池かバッテリーかは未定）で動きます。

名駅、栄、大須、名城を結ぶ環状のルートと名駅と栄の東西ルートを考えています。



SRTの路線イメージ



名古屋中法人会支部代表と森川名古屋大学教授

「SRTが走るルート」を市民が認識できることは重要で、天野浩先生が開発された青色発光ダイオードをレーンとして設置、それが光るようにして自動車にはレーンをあけてもらい、それを辿ることで自動運転も容易になります。

先進モビリティを導入する際に、特区的な考えも重要で、例えば中区、名駅、名城、大曽根から志段味を結んでいくと形が竜のような「ドラゴンエリア」、もうひとつは大学が集まる星が丘、本山、八事付近の「シャチホコエリア」などはどうでしょうか。そんなことを活用しながら名古屋を先進イノベーション都市にしたいと思っています。



二つのイノベーション特区

中部圏を先進モビリティ地域にする機運が高まり、幹事役を中経連および名古屋大学モビリティ社会研究所が担って、CAMIP (Chubu Advanced Mobility Implementation Platform 中部先進モビリティ実装プラットフォーム) を今年の5月に設立し、先進モビリティの実装に向けて産官学連携で進んでいきたいと思っています。



開会あいさつ 経営研究会代表幹事
佐々木 浩一 氏



司会 副代表幹事
平木 聖三 氏

経営研究会 講演会

日時／令和3年8月24日(火) 17:00～18:30

会場／東京第一ホテル錦 11F チャーロ